

活動報告書

報告者氏名: 田代和美 菊地昭裕

所属: 栃木県立益子特別支援学校

記録日: 2014年2月10日

【対象児(群)の情報】

・学年 高等部2年 男子

・障害名 アスペルガー症候群 広汎性発達障害

・障害と困難の内容

- ・身体的には健康状態は良好であるが、中学3年時から不登校で、本校入学後は登校しているが、母親の車から降りることができない。
- ・全緘黙であり、家庭でも必要なことだけをメモ書いて母親に渡している。
- ・自宅から外出することがほとんどなく、自室で過ごすことが多い。
- ・初めてのことに對しての警戒心がかなり強い。

【活動目的】

・当初のねらい

- ・車中にいながらクラスの生徒と映像を通じてコミュニケーションをとることやクラスの授業への参加。
- ・現在閉ざしてしまっている対象生徒の世界を広げる。

・実施期間

平成25年5月から平成26年2月まで

・実施者

田代 和美 菊地 昭裕

・実施者と対象児の関係

担任・副担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

身体的には健康状態は良好であるが、中学3年時から不登校で、本校入学後は、1年生時は約2/3程度登校しているが、一日の滞在時間は30分程度で、送迎している母親の車から降りることはなく、後部座席に寝転んでいる状態であった。

緘黙であり、家庭でもどうしても必要なことだけをメモに書き、母親に渡すという状態。

自宅から外出することは少なく、自室で過ごしていることが多い。

新たなことに対して、強固な不安があり、新しい提案を伝えると、学校に行きたくないと母親に訴えることがある。

・活動の具体的内容

- ① 本人の興味のある画像や映像を見せることで、iPad に対する不安を取り除く。
- ② クラスの学習の様子の画像や映像を見せる。
- ③ いろいろな質問に対して返答する。→「talking aid」を活用する。
- ④ クラスの友達と映像を通してコミュニケーションを図る。→「タンゴ」「Skype」を活用する。
- ⑤ 自分からタブレットを操作する。

・対象児(群)の事後の変化

- ① 「タブレットを見る」という活動を取り入れることで、後部座席に寝転がる状態から、助手席に座る状態になり、本人の興味のあるバイクの画像や、自分から行きたいと訴える唯一の場所であるツインリンク茂木のホームページを見ることで、iPad への恐怖心はなくなり、興味ももつことができた。
- ② 学習の様子を伝えることは、1年生のときにも行っていたが、写真や映像をタブレットの大きな画面で見せながら説明することで、行事等への不安が少しずつ解消されてきたように感じた。運動会の見学をきっかけに、登校時に車から降りることができるようになった。授業の様子等を教師が写真に撮り、それを自宅でゆっくりと見ることにに対する抵抗はなくなってきた。学校の様子をじっくりと確認できたことで、校舎内に入ることもできるようになった。
- ③ クラスの友達の質問を動画で録画し、それを見て、「talking aid」を使って質問に答えることができた。自分は声を出さなくても、音声で代弁してくれることを楽しんでいる様子が見られた。また、教師からの簡単な質問にも、「talking aid」を使って答えることができた。
- ④ 「タンゴ」は、電波状況から静止画像になってしまったり、音声もとぎれとぎれになってしまったため、助言を受けて、「Skype」を活用した。クラスの学習の様子を「Skype」で同時中継すると、画面に興味をもって見る様子が見られた。「Skype」画面上で、教師から名前を呼ばれると、手を振って応える様子も見られた。

- ⑤ 校舎内の見学ができるようになり、音楽室のドラムセットに興味を示したため、「Go! Drum Set」アプリを使って自宅でドラムを楽しむことができるようにした。家庭では、姉と一緒にタブレットを操作する様子が見られた。さらに、「○○の写真を撮ってきて」という課題を与え、自分で写真を撮ることもできた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

① 不安の解消

学校や授業、行事等に対する不安が解消されてきたのではないか。

② 対人関係の変化

周囲との信頼関係が生まれてきたのではないか。

・エビデンス(具体的数値など)

- ① 学校という場所、授業内容、行事等すべてに対して不安をもっていたが、言葉だけでなく、実際の様子をタブレットで説明を受けながら確認できたことで、不安感が解消されてきたと感じる。その結果が、運動会の見学や音楽室での楽器の演奏などの行動に表れた。
- ② 今までは、見られることへの拒否感を示したり、無反応・無表情であったが、自分から手を振ったり、自分の気持ちを表情や身振りで示せるようになったことは、自分の気持ちを表現することが少しずつできるようになってきたとともに、周囲との信頼関係が生まれてきたのではないかと考える。信頼関係が生まれたことで、教師と一緒にドラムとピアノのセッションをする様子なども見られた。

・その他エピソード(画像などを含めて)

・学校に対する不安感は解消され、活動範囲も広がり、表情もよくなっていた一方で、精神疾患からくる不安感や自発的行動の喪失から、自室に引きこもり、外出できない状態になったりと、一進一退を繰り返している。医師の診断を仰ぎながら、本人の意思を尊重して学習を進めている。タブレットを活用することで、学校だけでなく、対人に対する不安感は確実に減ってきていて、学級の友達から直接プレゼントを受け取ることもできるようになった。